



ガバナー月信



Rotary International District 2800 2023-2024

題字：野村百合子（山形北 RC）

国際ロータリー第 2800 地区 2023-2024 年度 | ガバナー 伊藤三之 | RI 会長 ゴードン R・マッキナリー

CONTENTS

ガバナー マンスリーメッセージ

ロータリーの「特別月間・週間・日」

地区委員会を積極的に活用しましょう!

地区委員会活動方針

7月1日のガバナー会

知事と山形市長の表敬訪問に行きました

山新グループの表敬訪問に行きました

シンガポール国際大会

新会員紹介



最上川の中流
「水郷大江夏まつり 灯ろう流し花火大会」
(山形県大江町)

撮影：井上智之（山形北 RC）



1 月信と「ロータリーを語ろう そしてロータリーを楽しもう」

上の写真をご覧ください。これらの写真は、今年1月8日から12日まで、アメリカのフロリダ州オーランドで開催された国際協議会(ガバナーエレクトがガバナーに就任するための条件となる研修会)での一コマです。世界中の地区ガバナーエレクト(世界中では520地区、そのうち日本では34地区)とパートナーが参加しますので、1,000名規模の会合ですが、日中はずっと研修会、夕方からはパーティーの5日間です。

左の写真は、日中の研修会での様子です。研修会のプログラムの中には、大きな会場で1,000名程度がスピーチを聞く時間帯もありますが、写真のように研修リーダーの仕切りで、20名程度に分かれて討論会をする時間帯もあります。ちなみに、私の左隣の方は、東京北部担当ガバナーの宮崎さんで、私たちの年度のガバナー会会長(毎年のガバナー会会長は、東京北部と東京南部のガバナーが隔年で務めます)です。ちなみに、おそろいのベージュのブレザーが私たちのガバナー年度のチームブレザーです。

そして、右の写真は、夕方からのパーティーでの一コマです。パーティーの中で知り合ったカナダの女性ガバナーエレクトは、私たちに流ちょうな日本語で話しかけてくれました。高校生のときにロータリーの交換留学生として日本に滞在し、大学生のときには米山奨学生として日本に滞在した、ロータリーと日本に感謝していると嬉しそうに語ってくれたのです。あっという間にうち解けて、写真撮影しましたが、世界をつなぐ「ロータリー」というキーワードのパワーを実感しました。

これからも、月信の中ではその時々写真を紹介し、その中に「ロータリーを語ろう そしてロータリーを楽しもう」との地区基本方針を掲載しますので楽しみに。

2 会員増強強化期間と田中久夫パストガバナー

8月は、国際ロータリーの「会員増強・新クラブ結成推進月間」です(ロータリーの特別月間・週間・日については、3頁の「ガバナーは語る」をご参照ください)。国際ロータリーが、年度の早い時期に「会員増強」を強調していることは、ロータリーを維持し発展させていくためには、会員増強が肝であることを意味しています。ロータリーを語り合い楽しむ仲間を増やすことが、クラブ活性化には不可欠なのです。

第2800地区でも、会員増強は喫緊の課題です。そこで、私は、本年度、「各クラブ1名以上、地区内50名以上の純増」を実現します。

7月から10月までの4か月間を、「会員増強強化期間」として、各クラブとの連携を密にして、なるべくはこの期間中に「各クラブ1名以上、地区内50名以上の純増」を実現するようにします。

そして、11月の地区大会(11月12日の午後の部)で、新会員に各クラブ会長とともにステージに登壇して頂き、会員全員での歓迎セレモニーを開催いたします。

今年度に向けた4月の地区研修・協議会では、「ロータリークラブに入ろう」(幻冬舎ルネッサンス新書)の作者であります田中久夫パストガバナー(第2840地区パストガバナー 高崎RC)を講師に迎えて、「ロータリーを語ろう そしてロータリーを楽しもう」という演題で、ロータリーの会員増強の意味についてご講演いただきました。素晴らしい講演でした。それは、「会員増強」をテーマにしたご講演であったにも関わらず、単に会員増強のノウハウを並べ立てたものではなく、むしろ、「ロータリーの魅力をどのように人に伝えるか」、「自分の所属しているロータリークラブを新会員候補者にどのように明確に説明できるか」こそが重要だとい



そして ロータリーを楽しもう

うことを切々と説いてくださいました。そのお話の内容は、聴いている私たちにロータリーの魅力、可能性をひしひしと伝えてくれました。

会員増強という形式、手法にとらわれず、常に、「ロータリーとは何か」、「ロータリーの魅力はどこにあるか」、こんな基本的なところからアプローチすること。会員増強の最も大切な心構えがここにあると私は思います。

1月12日の地区大会(午後の部)には、再度、田中久夫バスターガバナーにおいでいただき、会員増強の、そして、ロータリーのエッセンスを45分で分かりやすくお話しいたします。乞う、ご期待。

3 「それぞれの最上川物語」と最上川舟下り

地区内(県内)一円を流域として、しかも、地区内(県内)だけで完結する私たちふるさと山形の母なる川「最上川」の清掃事業、それが「それぞれの最上川物語」事業です。地区内の「ロータリー奉仕デー」としての統一事業であり、10月1日を実施日の基本として、ご準備されている最中と思います。

10月1日の朝6時から7時まで、寒河江の高速ETC出口そばの最上川ふるさと総合公園内で第4グループの「それぞれの最上川物語」事業が開催されます。その後、朝7時過ぎから、今度は中山町の最上川中山緑地内で第5グループの「それぞれの最上川物語」事業が開催されます。

そこで私は考えました。第4グループの清掃場所から第5グループの清掃場所までは、最上川で下ればわずか3キロ余りの距離ですから、ここは舟下りで移動しよう。台風などの緊急時でない限り、私とスタッフ数名が、ゴムボート2台に乗って「最上川舟下り」をして、会場を移動します。どうか、笑ってやってください。

4 地区大会の懇親会と地区内ロータリアンの酒蔵

1月12日夕方から開催されます地区大会の大懇親会(会場はホテルメトロポリタン山形)では、以下のことを約束いたします。

- ①ガバナーが開会の挨拶と乾杯をします。開会から3分後には乾杯します。
- ②例年早めに帰られる会員も多数いらっしゃいますので、開会から1時間以内に十分に飲んで食べ、楽しめるように、酒も食事も演出も、企画運営します。
- ③職業奉仕の一環として、地区内ロータリアンの全ての酒蔵の日本酒を、宣伝用のこも樽とともに提供します。現在判明している地区内ロータリアン関係の酒蔵は以下の13蔵です(それ以外にもあればご紹介ください)

- 第1グループ ・初孫(佐藤営業部長 酒田RC)
- 第2グループ ・鯉川(佐藤さん 余目RC)
- 第3グループ ・出羽桜(仲野さん 天童RC)
- ・山形正宗(水戸部さん 天童東RC)
- ・みちのく六歌仙(横尾元社長 東根RC)
- 第4グループ ・澤正宗(古澤さん 寒河江RC)
- ・あら玉(和田さん 河北RC)
- 第5グループ ・男山(尾原さん 山形RC)
- ・秀鳳(武田さん 山形西RC)
- 第6グループ ・東光(小嶋さん 米沢RC)
- ・小国桜川(鈴木さん 小国RC)
- ・米鶴(梅津さん 高島RC)
- ・錦爛(後藤さん 高島RC)



ガバナーは語る

ロータリーの「特別月間・週間・日」

クラブだけでなく、ロータリー会員一人ひとりが、ロータリーの活動に目標をもって積極的に参加できるよう、国際ロータリー理事会は、次のような「特別月間・週間・日」を定めています。

「特別月間・週間・日」を意識しながら、クラブ活動の活性化を図っていききたいものです。

なお、「※」は日本独自の特別月間を示します。

特別月間・週間・日	Month / Week / Day
重点分野：母子の健康月間 (Maternal and Child Health Month)	7月
会員増強・新クラブ結成推進月間 (Membership and New Club Development Month)	8月
重点分野：基本的教育と識字率向上月間 (Basic Education and Literacy Month) ※ロータリーの友月間 (rotary-no-tomo Month)	9月
重点分野：地域社会の経済発展月間 (Community Economic Development Month) ※米山月間(Yoneyama Month)	10月
ロータリー学友参加推進週間 (Rotary Alumni Reconnect Week)	10月7日を含む週 (月～日曜日まで)
ロータリー財団月間 (The Rotary Foundation Month)	11月
世界インターアクト週間 (World Interact Week)	11月5日を含む週 (月～日曜日まで)
重点分野：疾病予防と治療月間 (Disease Prevention and Treatment Month)	12月
職業奉仕月間 (Vocational Service Month)	1月
重点分野：平和構築と紛争予防月間 (Peacebuilding and Conflict Prevention Month)	2月
ロータリー創立記念日 世界理解と平和の日 (Rotary's Anniversary: World Understanding and Peace Day)	2月23日
重点分野：水と衛生月間 (Water, Sanitation, and Hygiene Month)	3月
世界ローターアクト週間 (World Rotaract Week)	3月13日を含む週 (月～日曜日まで)
重点目標：環境月間 (Environment Month)	4月
青少年奉仕月間 (Youth Services Month)	5月
ロータリー親睦活動月間 (Rotary Fellowships Month)	6月

(ロータリー章典8.020 2022年10月管理委員会会合、決定14号)



ガバナーは語る

地区委員会を積極的に活用しましょう！

1 地区委員会の役割と任務

ガバナーとして、地区委員長に次のことをお願いしております。

各クラブの皆さまは、地区委員会を積極的に活用してください。

(1) クラブ活性化のために

地区委員会は、ガバナー補佐と協力して、ガバナーが策定した地区基本方針及び地区基本方針に基づく地区重点事項を実行に移します。

ロータリー活動の基本はそれぞれのクラブにあり、クラブの活性化こそがロータリーの活性化の肝となりますが、地区委員会の役割と任務は、クラブの活性化のためにクラブを支援することにあります。

(2) 特に会員数の少ないクラブのために

第2800地区の今年1月末日時点での会員総数は1518名(うち、女性会員104名)。地区内クラブ数は49ですから、クラブ会員数の平均値は31名(30.97)です。そして、地区内には30名未満の会員数のクラブが26あります。そのうち、20名未満の会員数のクラブも19あります。

地区委員会は、特に、これらの会員数の少ないクラブの運営や活動を親身になって支援することで、地区内全てのクラブの活性化、そしてロータリー運動の活性化を図ることを目標に活動してください。

2 地区委員会の2つのタイプ

地区委員会は、クラブを支援する方法によって、概ね、次の2つのタイプに分けられることを前提に、ガバナーとして次のことを地区委員長にお願いしております。

各クラブの皆さまは、地区委員会の2つのタイプの違いを意識して、地区委員会を積極的に活用してください。

(1) 地区の「クラブ奉仕委員会」、「会員増強委員会」、「職業奉仕委員会」、「青少年奉仕委員会」、「地域奉仕委員会」、「国際奉仕・ロータリー学友委員会」などの特徴は、クラブ自体の効果的な運営や活動を支援することにあります。

各クラブの該当する委員会における活動の意義や目標を明示し、各クラブ内での具体的な活動内容やそのための効果的な計画、手法などを説明したり、例示したりすることが重要です。各クラブからの要望や相談に真摯に対応し、各クラブの目標達成を支援してください。

「地域奉仕委員会」及び「国際奉仕・ロータリー学友委員会」につきましては、各クラブの地域奉仕活動や国際奉仕活動を支援するツールとしての、財団の「地区補助金」及び「グローバル補助金」の受付窓口となりますので、その十分な対応もお願いします。

(2) 地区の「インターアクト委員会」、「ローターアクト委員会」、「RYLA委員会」、「青少年交換委員会」、「米山奨学・米山学友委員会」、「ロータリー財団委員会」などの特徴は、各クラブが地区やR1、ロータリー財団などのプログラムに参加するよう奨励し、支援することにあります(厳密には、ローターアクト委員会に関しては、2019年からはローターアクトはR1が提供するプログラムではなく、独立したクラブとなりましたので、その支援が任務ということになります)。

各々のプログラムの意義や目標を明示し、具体的な活動内容を説明したうえで、各クラブに積極的に参加してもらい、プログラム遂行を支援することが重要です。

3 各地区委員会の活動方針

各地区委員会の年間活動方針は、次頁以降の各委員会活動方針をご覧ください。

各クラブの皆さまは、各クラブの活動方針(運営方針、クラブ目標)を実行する際に、地区委員会のアイデア、企画、イベントなど、「地区委員会の活動計画」の内容を大いに取り入れて、地区委員会を積極的に活用することで、クラブの活性化を図ってください。

地区委員会活動方針

クラブ奉仕委員会



委員長
藤野 和男
(大江RC)

I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

ロータリアンは、クラブ内で親睦をもとにして自己研鑽・切磋琢磨して奉仕の理念を学ぶのであり、このクラブの内なる奉仕をクラブ奉仕といいます。クラブの中では奉仕の理念を学び奉仕の心を形成する。これがクラブ奉仕であり、クラブの外では、奉仕の心を、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、そして青少年奉仕として実践する。これがロータリー活動です。

そうしますと、ロータリー活動の基本はクラブ奉仕にあり、そして、クラブ奉仕の基本は例会にあります。親睦、そして、自己研鑽の場としての例会の重要性を理解し、充実した例会方法の工夫、出席率向上のための工夫を共に考えてみましょう。

クラブ奉仕の意義(クラブとクラブリーダーはクラブ会員に対して「親睦と学びの場」を提供する義務を負い、クラブ会員はこれを有効活用する責任を負う)や目標をしっかりと理解し、クラブ活性化への具体的プランの策定、「クラブ戦略計画」の策定をしてください。

その際、R I のロータリー戦略計画との整合性にご配慮ください。

クラブの活性化を図るうえで、最近のR I の動向である「クラブ運営の柔軟性」にも十分ご配慮ください。

地区クラブ奉仕委員会の開催するセミナーなどにご参加頂くとともに、積極的にクラブの卓話を要請するなどして、地区クラブ奉仕委員会を積極的にご活用ください。

II 地区クラブ奉仕委員会の活動計画

1 「クラブ奉仕ガイドブック」の改訂

昨年度に作成した「クラブ奉仕ガイドブック」をさらにブラッシュアップして、改訂版を製作し、地区クラブ奉仕委員会共通の情報として各クラブに発信します。

この「クラブ奉仕ガイドブック」は、入会歴の浅い会員を始め、広くロータリアンにロータリー活動の基礎となる「クラブ奉仕」について学んでいただくためのツールとして活用していただくことが可能です。

当委員会では、改訂作業を通じて、地区クラブ奉仕委員会委員が意識、知識を共有化することによ

り、卓話要請の対応に備えるとともに、委員のレベルアップを図り次期委員長の選任に備えることも副次的な目的としています。

2 積極的な卓話要請の受け入れと各クラブの例会の充実支援

6 グループ9名のガバナー補佐の方々と連携しながら、各クラブに当委員会からの卓話要請と、「クラブ奉仕ガイドブック改訂版」の情報の周知を促すとともに、R I の「ロータリー戦略計画との整合性」、さらには、「クラブ運営の柔軟性」に関する的確なアドバイスをすることで、各クラブが例会を充実させ、クラブを活性化させることを支援します。

3 クラブ奉仕セミナーの開催

ロータリー活動に対する新たな意欲を喚起すべく、充実したクラブ奉仕セミナーを開催します(第1回を7月23日に開催しました。別途、ご報告いたします)。

セミナーをより有益なものにするために、ロータリー情報委員会、会員増強委員会、公共イメージ委員会、職業奉仕委員会など地区の他の委員会とも連携して、「クラブ活性化セミナー」としての開催も検討します。

ロータリー情報委員会



委員長
伊勢 博
(東根RC)

I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

R I 発の最新情報ばかりでなく、各クラブの活動状況などの有益なロータリー情報をお互いに発信し、共有することを通して、クラブの活性化を図りましょう。

まずは、「My Rotary」への登録を行いましょう。

マイロータリーは、ロータリーの現在を知り、学びを深めるうえで欠かせないリソースであるというだけでなく、既にロータリー活動を行う際の「プラットフォーム」としての機能や役割を備えつつあります。これにアクセスできなくては、ロータリー活動を効果的に行うことが難しくなりつつあり、ロータリアンでありながら、ロータリーから疎外されることにさえなりかねない状況です。

2023年1月時点での、第2800地区内の「My

Rotary」の登録率は約20パーセントに過ぎず、全国的(全国平均約45パーセント)にも大きく遅れをとっております。是非、各クラブでの積極的な登録(クラブで、そして会員各自で)をお願いします。

次に、高度情報化社会のメリットを享受すべく、地区ホームページのさらなる充実を目指しますので、地区ホームページを当地区内で「プラットフォーム」として積極的に活用してください。また、LINE等の有効なツールの活用についてもご協力をお願いします。

昨年度から始まった「地区公式LINE」は、毎月の動画でのガバナー挨拶の他、その時々での地区内活動報告、月信などの最新の情報を気軽に携帯電話で入手することが可能な、極めて有効なツールであることが実感できます。2023年2月時点でのフォロワー数が264名(登録率約18パーセント)にすぎないことは、もったいないことです。LINE登録可能な地区内ロータリー全員の登録を目指しましょう。

II 地区ロータリー情報委員会の活動計画

1 「クラブ活性化」及び「学び」に役立つ情報の提供

RI発の最新情報ばかりでなく、各クラブの活動状況などの有益なロータリー情報を発信し、共有することを通して、クラブの活性化を図ることを支援します。

また、クラブや各会員が、ロータリーを学ぶために役立つ情報も容易に取得できる体制を整え、「学び」を支援します。

2 「My Rotary」への登録推進

マイロータリーの有用性をさらに広報していくとともに、登録方法などの支援を行いながら、クラブ及び会員各自のマイロータリーへの登録を推進していきます。

3 地区ホームページやFacebook、LINE等の有効なツールの活用

高度情報化社会のメリットを享受すべく、地区ホームページのさらなる充実を目指すほか、昨年度から本格的に運用している地区公式FacebookやLINEのさらなる充実を目指し、皆さまの活用を推進していきます。

4 セミナーの開催

職業奉仕委員会など他の地区委員会と協力して、ロータリーの目的、ロータリーの歴史、ロータリーの今後の方針など、ロータリーについて語り合い学べるセミナーを開催します。

5 外部への情報発信

地区公共イメージ委員会とも連携しながら、ロータリー情報の外部発信を推進し、ロータリーの認知度、公共イメージの向上を図ります。

会員増強委員会



委員長

赤塚 弘実
(天童東RC)

I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

ロータリーを語り合い楽しむことで、ロータリアンとしての活力が身につきます。活力あるロータリアンが多いクラブは、組織としての活力も増します。そのような好循環の中で、さらにクラブの活力を増大させるとともに、自分自身の活力を増大させるために、ロータリーを語り合い楽しむ仲間を増やしましょう。

つまり、ロータリーを語り合い楽しむ仲間を増やすことが、クラブ活性化には不可欠なのです。

そして、会員増強は、クラブの組織そのものに関わることで、クラブ内の担当委員会だけの問題ではなく、クラブ全体で対応すべき活動であることを認識する必要があります。

その際には、マイロータリーなどのツールを積極的に活用し、世界中の仲間とつながり、世界中の仲間のアイデア、最新情報を積極的に取り入れましょう。

また、既存会員、特に入会歴の浅い会員の退会をいかにして防ぐことができるのか、今こそ、その対策を真剣に考えてみましょう。ここでも、世界中の仲間のアイデア、最新情報がきっと役に立つはずで。

地区会員増強委員会の開催するセミナーなどにご参加頂くとともに、積極的にクラブの卓話を要請するなどして、地区会員増強委員会を積極的にご活用ください。

II 地区会員増強委員会の活動方針

1 冊子「会員増強物語」の製作

新会員の拡大と退会防止に向けて、マイロータリーの情報や地区内成功事例なども踏まえて、新会員向けクラブ内セミナーの開催マニュアルや退会防止のための具体的なアイデアなどを盛り込んだ冊子「会員増強物語」を製作します。

2 会員増強セミナーの開催

上記1の冊子をテキストにした会員増強セミナーを開催します。

セミナーをより有益なものにするために、クラブ奉仕委員会、ロータリー情報委員会、公共イメージ委員会、職業奉仕委員会など地区の他の委員会とも連携して、「クラブ活性化セミナー」としての開催も検討します。

3 会員増強強化期間と地区大会での歓迎セレモニー

「各クラブ1名以上、地区内50名以上の純増」を実現します。

7月から10月までの4か月間を、「会員増強強化期間」として、各クラブとの連携を密にして、なるべくはこの期間中に「各クラブ1名以上、地区内50名以上の純増」を実現するようにします。

11月の地区大会(11月12日の午後の部)で、新会員に各クラブ会長とともにステージに登壇して頂き、会員全員での歓迎セレモニーを開催いたします。

4 積極的な卓話要請の受け入れ

昨年度同様、本年度も、クラブから要請があれば、会員増強に関する卓話に喜んで伺います。クラブの会員増強のツールの一つとしてご利用ください。

「ロータリークラブに入ろう」の著者である田中久夫氏(第2840クラブ地区パストガバナー 高崎RC)は、会員増強の目的は決してクラブの会員数を増やしたいだけの安直な目的ではなく、一番重要な目的は、「ロータリークラブに入ることがどれだけ本人のためになるのかをその本人自身が理解してくれることであり、それこそがクラブへの奉仕、地域社会への奉仕、その人への奉仕だ」とおっしゃいます。この熱い想いを卓話の中でお伝えできればと思っています。



公共イメージ委員会



委員長

松岡 友路
(山形イブニングRC)

I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

今日の情報化社会においては、会員増強のためにも、事業のパートナーを募るうえでも、さらには寄付を募るうえでもロータリーの公共イメージの向上は決定的に重要な事項です。

ロータリーの公共イメージの向上は、クラブ単体でできることには限界がありますので、ロータリー情報委員会を始めとする地区委員会と連携して、様々な工夫をしながらロータリーの公共イメージの向上に努め、クラブそしてロータリーの組織基盤の確立、活性化を図りましょう。

II 地区公共イメージ委員会の活動計画

1 3つの「目に見える化活動」

ロータリーの公共イメージを向上させるために、次の3つの「目に見える化活動」を行いますので、よろしくご協力ください。

(1) 募金箱の設置

各会員事業所や公共施設などに、通年、ポリオ撲滅、ウクライナ支援、トルコ災害支援などの、その時々々のロータリー活動を告知する案内文と募金箱を設置するなどして、ロータリー活動の現状を知ってもらい、同時に公共イメージの向上に努めます。地区委員会としては、そのためのツールを準備します。

(2) 地区補助金活用事業の一覧紹介ポスター作成

地区公共イメージ委員会が地区地域奉仕委員会と連携して、各クラブの過去の主な地区補助金活用事業の一覧紹介ポスターを作成し、各会員事業所や公共施設などに掲示して、地域社会に密着したロータリー活動の実績を知ってもらい、同時に公共イメージの向上に努めます。

また、ロータリー奉仕デーの事業である「それぞれの最上川物語」との運動も検討します。

(3) 各クラブとの連携

- ・地区ロータリー情報委員会と協力して、各クラブの広報委員会(広報担当者)向けセミナーを開催して、マスコミへのニュースリリースやSNS配信のノウハウを共有していただく。
- ・各クラブ発のロータリー活動に関するトピックな情報を地区公共イメージ委員会で集約し、情報を定期的に外部に発信することで、公共イメージの向上に努めます。

2 公共イメージの拡大と改善へのアプローチ

ジョン・ヒューコRI事務総長は、ソートリーダーシップ(テーマや社会問題などの特定の分野において、将来を先取りした革新的なアイデアや解決策を一早く発見し示すことで、その分野における主導者となること)を広げることで公共イメージが磨かれ改善されると述べます。

地区公共イメージ委員会は、この「ソートリーダーシップ」、「公共イメージの拡大と改善」という観点から、ロータリーの公共イメージの向上について検証します。

職業奉仕委員会



委員長
吉澤 彰浩
(米沢中央RC)

I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

クラブの活性化そしてロータリーの活性化は、最終的には、活力と知力あふれるロータリアン一人ひとりによって実現されます。その背景には、しっかりとしたロータリー哲学、ロータリー観が必要です。

最近のR Iの方針と従来の基本的理念との関係が理解できない、最近のロータリーの目指しているところが分からない、そのためにロータリーにストレスを感じている、という声も多く聞こえてきます。

これまでのロータリーの歴史をふまえ、「職業奉仕概念の変遷の歴史と意味」ばかりでなく、「奉仕の理念」と「ロータリーの目的」、「ロータリーの二つの標語(モットー)」、「四つのテスト」、「寛容」など従来からの基本的理念、さらには、近年R Iで強調されている「中核的価値観」、「ロータリーのビジョン声明」、「ロータリー戦略計画」、「行動計画」、「DEI」などの概念も盛り込み、活発で有意義なロータリー活動を支えるロータリー哲学、ロータリー観を分かりやすく整理、再構築します。

また、ロータリー哲学のバイブルとも言われる決議23-34(国際ロータリー1923年決議34号)から丁度100年。この節目に、その意味を再確認してみたいと思います。

II 地区職業奉仕委員会の活動計画

1 職業奉仕の定義(標準ロータリークラブ定款第6条五大奉仕部門の2)

職業奉仕概念の変遷の歴史と意味を踏まえて、標準ロータリークラブ定款にある職業奉仕の定義と、いわゆる「職業奉仕の森」について、地区内すべてのロータリアンにしっかりと理解していただきます。

2 ロータリー哲学、ロータリー観の整理、再構築

「奉仕の理念」と「ロータリーの目的」、「ロータリーの二つの標語(モットー)」、「四つのテスト」、「寛容」など従来からの基本的理念、さらには、近年R Iで強調されている「中核的価値観」、「ロータリーのビジョン声明」、「ロータリー戦略計画」、「行動計画」、「DEI」などの概念も盛り込み、活発で有意義なロータリー活動を支えるロータリー哲学、ロータリー観を分かりやすく整理、再構築します。

3 決議23-34(国際ロータリー1923年決議34号)の再確認

ロータリー哲学のバイブルとも言われる決議23-34から丁度100年。この節目に、その意味を再確認してみることは極めて有意義なことです。

4 職業奉仕セミナーの開催

上記1ないし3を前提に、職業奉仕について深く理解していただくセミナーを開催しますので、積極的にご参加ください。

5 各クラブの職業奉仕に関する活動の紹介

地区内各クラブ、さらには世界中のクラブの職業奉仕に関する有意義な活動を紹介していきます。世界中の仲間のアイデアを取り入れ、職業奉仕に関する魅力的な活動を展開することでクラブを活性化させましょう。

6 積極的な卓話要請の受け入れ

昨年度同様、今年度も、クラブから要請があれば、職業奉仕に関する卓話に喜んで伺います。上記1ないし3、5について分かりやすくお話しいたします。

青少年奉仕委員会



委員長
遠藤 伸一
(寒河江RC)

I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

ロータリーの青少年奉仕プログラムの理念は、未来への投資であり、これらのプログラムを通じて、ロータリアンがロータリーの理念や伝統を、次世代の若者たちと共有し、引き継ぐことにあります。

ロータリーが提供する青少年奉仕プログラムには、インターアクト、ローターアクト(厳密には、ローターアクトは、青少年奉仕プログラムではなく、ロータリーの仲間となっていますが)、RYLA、青少年交換があります。米山奨学制度も、日本のロータリーが誇るべき青少年奉仕プログラムの一つと言えます。

そして、これらの青少年奉仕プログラム参加者の相互交流を積極的に図ることで、それぞれのプログラムのさらなる充実を目指します。

ゴードン・マッキナリーR I会長が示唆する、「バーチャルな手法を用いての国際平和のための青少年プログラム」にもチャレンジします。

2024年3月には「第36回全国ローターアクト研修会 山形会議」が、同年5月には「第27回国際ロータリー日本青少年交換研究会 山形会議」が開催されます。

青少年奉仕に関するこの2つの全国大会の開催を通じて、私たちロータリアンの夢と志を、次代を担う若者たちにしっかりとつないでいきましょう。

青少年奉仕に関する、インターアクト、ローターアクト、RYLA、青少年交換の各委員会とも、それぞれの委員会の委員一人ひとりが、「自分たちは、何のために活動しているのか」、そして、「青少年には、何を伝えなければならないのか」など、青少年奉仕の意義、目的を明確にした上で、青少年奉仕プログラムに参加する若者達に、達成感、感動、成長をもたらすような運営を心がけていきたいと思えます。

また、ロータリアンに、青少年奉仕活動を理解、共感していただき、協力をしてもらえようような広報や宣伝に努めてまいります。

II 地区青少年奉仕委員会の活動計画

1 2つの全国大会の成功

「第36回全国ローターアクト研修会 山形会議」(2024年3月23日～24日 山形市)及び「第27回国際ロータリー日本青少年交換研究会 山形会議」(2024年5月11日～12日 天童市)を絶対に成功させます。

青少年奉仕の4つのプログラムは、いずれもロータリーにとって重要な価値あるプログラムですが、現状は各プログラムへのロータリアンの参加者の減少が課題です。それは、それぞれのプログラムのロータリーの価値をロータリアンに理解してもらえていないことが原因です。

この2つの全国大会は、地区内の多くのロータリアンに、青少年奉仕プログラムの価値を体感していただける絶好の機会です。地区内の多くのクラブ、ロータリアンの参加をお願いします。

2 青少年奉仕プログラム参加者の相互交流

インターアクター、ローターアクター、ライラリアン、交換学生、さらには米山奨学生など、青少年奉仕プログラム参加者の相互交流を積極的に図っていくことで、それぞれのプログラムのさらなる充実を目指します。そのための企画をいたしますので、関係クラブにおかれては、ご協力をお願いします。

3 パーチャルな手法を用いての国際平和のための青少年プログラム

インターアクトもローターアクトも世界中に数多くの仲間がいます(インターアクトはクラブ数約18,500、会員数約425,000人。ローターアクトはクラブ数約11,400、会員数約206,000人)。

コロナ禍を通じて学んだことをヒントに、バー

チャルな手法を用いての国際平和のための青少年プログラムを試行します。異文化間のコミュニケーションと理解を深め、参加する青少年のスキルアップを図るとともに、青少年奉仕の観点から、より安定した平和な社会の実現を目指します。

4 各クラブ独自の青少年奉仕活動の紹介

地区内各クラブでは、RIの4つの青少年奉仕プログラム以外に、独自の青少年奉仕活動を行っているところも少なくありません。

そこで、地区内各クラブ、さらには世界中のクラブの青少年奉仕に関する有意義な活動を紹介していきます。世界中の仲間のアイデアを取り入れ、青少年奉仕に関する魅力的な活動を展開することでクラブを活性化させましょう。



I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

インターアクトは、1962年にRI理事会で採択された国際ロータリーの常設プログラムです。

インターアクトクラブは、学校や地域社会での課題に取り組むために結成する大学入学前の12歳から高校卒業までの青少年のためのクラブです。インターアクターは、インターアクトクラブで奉仕活動を行い、リーダーシップのスキルを身につけ、新しい友人をつくれます。

インターアクトクラブは、所在する地区内にある1つまたは複数のロータリークラブにより、結成、提唱、指導監督されます。

インターアクトクラブは、スポンサークラブ(提唱ロータリークラブ)とともに、毎年、少なくとも2つの奉仕プロジェクト(1つは地域社会を支援するプロジェクト)、もう1つは国際理解を推進するプロジェクト)を実施しなければなりません。

第2800地区には、8つのインターアクトクラブ(県立鶴岡中央高校、鶴岡東高校、羽黒高校、新庄東高校、創学館高校、慍山高校、県立南陽高校、九里学園高校)があり、それぞれが活発な活動を繰り広げています。

その活動の意義をスポンサークラブ以外のクラブにも周知してもらおうとともに、新たなインターアクトクラブの設立についても検討していただく必要があります。

II 地区インターアクト委員会の活動計画

1 インターアクトクラブの表敬訪問の充実

昨年度からの新たな試みとして、ガバナー始め地区関係者、スポンサークラブ関係者によるインターアクトクラブ表敬訪問を、インターアクターが実際に活動している時間帯に訪問して、インターアクターの活動に参加したり、相談を受けたりしながら様々な活動を視察する形にいたしました。

グループごとの視察でしたが、スポンサークラブ以外のグループ内クラブメンバーにも視察をして頂くことで、多くの「気づき」を得られたのではないかと思います。

今年度も引き続き、ガバナー、ガバナー補佐、スポンサークラブの方々、顧問の先生方の協力を得ながら、インターアクターの活動を認知していただくべく、多くのグループ内クラブメンバーに参加していただき、インターアクトクラブ表敬訪問事業を充実させ、このプログラムのレベルアップを図っていききたいと思います。

2 ガバナー月信への投稿

ガバナー月信の「インターアクトクラブ訪問及び報告」の欄に「インターアクターの声」などを積極的に掲載し、インターアクターの感想や想いをロータリアンも共有することで、インターアクト活動の充実を図っていききたいと考えています。

3 インターアクターの発言の場の設定

インターアクト年次大会やロータリー地区大会などで、インターアクター自らがインターアクトの活動内容や魅力を多くの人に伝えられる場を設けていくことで、インターアクターのリーダーシップを養うとともに、インターアクトの魅力を多くのロータリアンに共有していただきたいと思っています。

4 青少年奉仕プログラム参加者との交流

ロータリーアクターを始めとする青少年奉仕プログラム参加者との積極的な交流を通して、お互いが成長できるような機会を設定し、青少年奉仕事業の充実を図ります。

来年3月の「全国ロータリーアクト研修会 山形会議」及び来年5月の「国際ロータリー日本青少年交換研究会 山形会議」にも積極的に関わることで、インターアクト活動のレベルアップを図ります。

5 バーチャルな手法を用いての国際平和のための交流会

インターアクトは世界中に数多くの仲間がいます（インターアクトは世界中で、クラブ数約18,500、会員数約425,000人）。

ZOOM等のバーチャルな手法を用いて、海外のインターアクトクラブとの意見交換イベント等を行います。異文化間のコミュニケーションと理解を深め、参加するインターアクターのスキルアップを

図るとともに、ロータリーファミリーであることを実感してもらい、インターアクト活動の充実と平和構築につなげます。

6 「ロータリー奉仕デー それぞれの最上川物語」への関わり

「ロータリー奉仕デー それぞれの最上川物語」にインターアクトクラブも積極的に参加し、環境問題やふるさとについて共に考えるとともに、希望(未来)を共有する一日を楽しみたいと思います。ご協力をお願いします。

7 新たなインターアクトクラブの設立

特にインターアクトクラブが存在しない地域を中心に、新たなインターアクトクラブの設立も検討してみたいと思いますので、皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。



I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

ローターアクトクラブは、地域社会や国際的活動を通じて行動し、リーダーシップスキルを学び、専門職向上に参加する若い大人の組織で、地域社会あるいは大学を基盤として設立できます。

当地区には、7つのローターアクトクラブ(酒田、鶴岡、昨年度設立の西村山、東北文教大、山形、南陽東、米沢)があります。

ローターアクトクラブは、今、変革の真っ只中にあります。

RIからは、ローターアクトクラブがロータリークラブから自立し拡大していく道(自立と自律)を示されていますが、現実には、会員数減少、組織体制、経済的基盤など多くの課題を抱えているようです。

そのような状況の中で開催される「第36回全国ローターアクト研修会 山形会議」。ローターアクトクラブの現状と課題、そして未来を、全国のロータリアン、ローターアクターと語り合ってみましょう。このイベントを、ローターアクトクラブの活性化のための起爆剤とすべく、知恵を出し合ひましょう。

II 地区ローターアクト委員会の活動計画

1 「第36回全国ローターアクト研修会 山形会議」

いよいよ、「第36回全国ローターアクト研修会 山形会議」(2024年3月23日～24日 山形市)が開催されます。

ローターアクトクラブの現状と課題、そしてその未来を、全国のロータリアン、ローターアクターと語り合しましょう。

当委員会は、この全国大会の準備と会議の開催を通じて、当地区のローターアクト活動を活性化させる起爆剤とすべく活動して参りますので、各クラブの皆さまの積極的なご参加をお願いします。

2 ローターアクトクラブ活動の充実

広くローターアクターを募り、ローターアクトクラブを活性化させるためには、根本的には、ローターアクトクラブ活動を充実させ、ローターアクトクラブの魅力を高めることが重要です。

ローターアクター自身がその活動の目的意識を明確に持って「年度テーマ」にふさわしい年間事業を計画し実行する、そのことを通じてリーダー育成に重点を置いたプログラムを実行できるように指導、支援してまいります。

3 ロータリークラブとローターアクトクラブの交流の充実

私たちロータリアンも、ロータリーファミリーの重要な一員であるローターアクト会員の増強に向けて、最大限の支援をしましょう。

そのためには、ローターアクト活動の意義を、スポンサークラブのみならず、広くロータリアンに知っていただくことが重要であり、ロータリークラブの例会にローターアクターを招き卓話をしてもらうこと、一緒に社会奉仕活動を行うこと(特に、本年度はロータリー奉仕デーの事業である「それぞれの最上川物語」)を始めとして、ロータリークラブとローターアクトクラブの交流を密に図っていく必要があります。

本年度、当委員会は、ロータリークラブとローターアクトクラブの交流を充実させるための活動に取り組みますので、ご協力をお願いします。

4 バーチャルな手法を用いての国際平和のための交流会

ローターアクトは世界中に数多くの仲間がいます(ローターアクトクラブ数は世界中で約11,400、会員数約206,000人)。

ZOOM等のバーチャルな手法を用いて、海外のローターアクトクラブとの意見交換イベント等を試行します。異文化間のコミュニケーションと理解を深め、参加するローターアクターのスキルアップを図るとともに、ロータリーファミリーであることを実感してもらい、ローターアクト活動の充実と平和構築につなげます。



I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

RYLAとは「Rotary Youth Leadership Awards (ロータリー青少年指導者養成プログラム)」のことです。

RYLAは、インターアクター、ローターアクター及び一般の青少年の指導を開発するための研修プログラムで、クラブ、地区、または他地区合同の規模で実施されます。数ある青少年プログラムの中でも、このRYLA研修は全てのクラブが積極的に参加することができるプログラムとなっていることが特徴です。

他方、ロータリークラブやローターアクトクラブにとっても、RYLA参加者の持つ新鮮な視点や考え方から新たな刺激を得られるとのメリットのほか、会員増強のチャンスを得るとのメリットもあります。

ここで、「RYLAの目的」をまとめると次のようになります。

- ・若者のリーダーシップスキルを磨き、地域に貢献する若者を育成すること
- ・若者の心に生涯にわたる奉仕の精神を育み、ロータリーを通じた奉仕の機会へと導くこと
- ・若者のリーダーシップ育成を支援することにより、ロータリーの青少年奉仕を実践すること

また、「RYLAのメリット」をまとめると次のようになります。

- ・未来の担い手を育てる
地域や世界の課題に取り組むためには、多くのリーダーが求められます。ロータリーの五大奉仕の一つである青少年奉仕は、リーダーシップ育成を通じて若者の成長を促すことを重視しています。RYLAは将来を担う地域の若者を育て、青少年奉仕を実践する機会になります。このような研修を通じて、若者たちは自分の意見を形づくり、行動に移すためのスキルを磨くことができます。

- ・つながりを築く
RYLAは、若者が互いにつながり、協力し合う絶好の機会です。ロータリーに関わる全ての若者に参加してもらい、つながりを促しましょう。ロータリーについて学びながら、社会貢献をめざす仲間たちと出会うことができます。

- ・参加者の基盤を広げる
参加した若者にとって、RYLAはロータリーとの初めての接点となります。RYLAは、若いリー

ダーと関われるだけでなく、ロータリーとの繋がりをスタートさせる素晴らしいチャンスとなります。

・会員増強の機会

ロータリークラブやローターアクトクラブにとっても、RYLA参加者の持つ新鮮な視点や考え方から新たな刺激を得られるとのメリットのほか、会員増強の機会を得るとのメリットもあります。

地区のインターアクト委員会、ローターアクト委員会、青少年交換委員会、さらには米山奨学・米山学友委員会とも連携して、各クラブの協力を得ながら有意義なRYLAの実施を目指します。

参加人数 50名+RC会員20名以上(RC会員は、見学のみでの参加も大歓迎)

II 地区RYLA委員会の活動計画

1 RYLA研修の復活

コロナ禍により、RYLA研修はここ3年間開催できませんでした。過去のRYLAの内容を検証し、それを進化させて第2800地区内すべてのクラブからご理解ご協力を頂き、ロータリー会員企業はもとより県内企業の若手、更には、ローターアクト世代の20代から30代を対象に次世代のリーダーとなる人材の育成を目指します。

将来の日本を担う若者の夢、希望、想いなどを参加者みんなで語り合い、理解し合うことによって、参加者だけでなく私たちロータリアンも多くの気づきを得て成長することができるRYLA研修にして参ります。そして、参加して良かったと全員が思える感動と達成感いっぱい、今後に繋がるRYLA研修を委員会中心に企画し運営をして参りますので、是非、多数の方のご参加をお願いします。

2 「全国ローターアクト研修会 山形会議」及び「国際ロータリー日本青少年交換研究会 山形会議」との連携

本年度は2024年3月に全国ローターアクト研修会、5月には青少年交換全国研究会が当地区で開催されますので、その企画との連携も検討して参ります。ご理解、ご協力よろしくをお願いします。

3 活動スケジュール

(1) 2023年7月～12月

- ・どのようなプログラムにすれば実効性があるのか、地区内外の研修内容の調査及び検証を行う

(2) 2024年1月～4月

- ・RYLAプログラムの企画・具体的な実施要項作成
- ・地区内クラブに訪問し、多くのクラブからの参加を頂けるようプログラム内容、参加することで得られるメリットなど広報し、参加案内を行う
- ・「全国ローターアクト研修会 山形会議」及び「国際ロータリー日本青少年交換研究会 山形会議」との連携を検討する

(3) 2024年5月～6月

- ・RYLAの開催日時（1泊2日を予定）

青少年交換委員会



委員長

佐藤 聡
(鶴岡南RC)

I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

ロータリーの青少年交換事業は、15歳から19歳の学生を、およそ1年間にわたって相手国のロータリークラブと相互に交換するものです。交換学生はロータリークラブの支援のもと、ホストファミリーと暮らしながら、現地校に通い、ロータリーの活動に参加するなかで、親善大使として互いの国の理解を深める活動をしています。

1974年に「ロータリー青少年交換プログラム」がRI理事会によって青少年奉仕プログラムの一つとして正式採択される以前の1965年、鶴岡ロータリークラブがスポンサーとなって、当地区から最初の青少年交換学生がアメリカに旅立ちました。

それから約60年、当地区から約160名の青少年交換学生が世界中に派遣され、そして同じ数だけの交換学生を世界から当地区に受け入れた、歴史のある事業です。

このプログラムは、青少年の国際理解と親善の精神を育み、平和の構築と維持に不可欠な異文化理解能力の養成に役立つとともに、生涯にわたる奉仕への献身を青少年の心に芽生えさせるものであって、「ロータリーの目的」に資するものです。

事業の意義を地区内の多くのクラブから認知してもらい、より広範囲に青少年交換の派遣学生そして受入先を募りたいものです。

コロナ禍の影響により、当地区の青少年交換事業も2年間休止しておりましたが、2022年夏から3年ぶりに再開されました。

2023年度の青少年交換の派遣学生3名も決定しています。

- ・2022-2023年度交換 4名(メキシコ、スイス、台湾2名)
- ・2023-2024年度交換 3名(メキシコ、台湾、アメリカ北西部&カナダ南西部)

II 地区青少年交換委員会の活動計画

1 アウトバウンド(派遣)学生の送り出し、インバウンド(来日)学生の受け入れ

2023年8月から始まる青少年交換をスムーズに行うため、ホストクラブ、ホストファミリー、受入れ高校、ROTEX、そしてロータリアンと緊密に連携して、スムーズなアウトバウンド(派遣)学生の送り出し、インバウンド(来日)学生の受け入れを行います。

2 派遣候補学生の募集、選考、オリエンテーション

今年8月31日を応募締め切りとして、2024年夏に派遣予定(2024-2025年度交換)の学生の募集、選考を行います。

対象は、現在、中学3年生から高校2年生です。ロータリアンのご子息も応募可能です。9月に選考を行ったのち、7回程度のオリエンテーション、多地区合同スプリングキャンプを通じて、派遣に向けた育成を行います。

応募にあたってはロータリークラブにスポンサーになっていただく必要があり、クラブに相談して申し込むこととしております。学生から応募に向けた相談がありましたらお知らせください。

3 「第27回国際ロータリー日本青少年交換研究会山形会議」

2024年5月11日(土)から12日(日)、天童市市民文化会館及び天童ホテルを会場に、「第27回国際ロータリー日本青少年交換研究会 山形会議」が開催されます。

全国から交換学生、ROTEX、青少年交換関係者数百名が集い、青少年交換に対する理解を深めるとともに、友情を育む機会となります。

山形会議に地区内ロータリアンから多数ご参加いただくことによって、事業の意義を認知していただき、より多くのクラブに青少年交換に参画していただきたいと考えています。ホスト地区として、充実したプログラムになるよう準備を進めて参ります。

その前提として、今年度は、スポンサーやホストクラブだけでなく、各グループで交換学生をサポートできる仕組みを構築していきます。

I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

『今後、日本の生きる道は平和しかない。それをアジアに、そして世界に理解してもらうためには、一人でも多くの留学生を迎え入れ、平和を求める日本人と出会い、信頼関係を築くこと。それこそが、日本のロータリーに最もふさわしい国際奉仕事業ではないか』米山奨学事業は、1952年、このような想いを持って、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した米山梅吉の功績を記念して、東京ロータリークラブで発足されました。この事業はやがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年に財団法人ロータリー米山記念奨学会となりました。

当地区においても、1969年、世話クラブが米沢ロータリークラブで台湾から山形大学に留学した奨学生から始まり、約53年の間に約260名もの奨学生を受け入れている、歴史のある事業です。

米山奨学会は、奨学金による経済的支援だけでなく、ロータリークラブ独自の世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援が特徴ですが、この事業の国際奉仕そして青少年奉仕としての意義を地区内の多くのクラブから認知してもらい、より広範囲に奨学生の受入先を募りたいものです。

また、米山奨学事業は、その資金のすべてをロータリアン一人ひとりの寄付に頼っています。皆さまの絶大なご協力をお願いします。「与える文化」を実践しましょう。

ちなみに、直近の資料(2022-23 ロータリー米山記念奨学事業 豆辞典)によりますと、2021-22年度の全国平均寄付額は一人あたり約1万6000円なのに対して第2800地区は約1万円で34地区中27位でした(最も多い地区は第2590地区(横浜・川崎)で約2万8000円)。

さらに、元米山奨学生を中心とする同窓会組織である米山学友会の活発な活動のための支援もお願いします。

II 地区米山奨学・米山学友委員会の活動計画

1 世話クラブ及び世話クラブカウンセラーの推進

積極的に世話クラブを受諾して頂けるよう、各クラブに世話クラブになることのメリットをPRしていきたいと思います。

なお、2024年4月からの米山奨学生の世話クラブ、そしてサブ世話クラブの募集は、2024年1月から2月頃ですので、地区委員会に積極的にお声がけください。

また、世話クラブカウンセラーを安心して受諾して頂けるよう、世話クラブカウンセラー向けのオリエンテーション(2024年4月6日開催予定)を更に充実したものにします。

世話クラブカウンセラーオリエンテーションには、世話クラブ、サブ世話クラブ、世話クラブカウンセラー、米山奨学生が在籍する大学の教授などを招き、年間の打ち合わせや情報提供に心がけ、世話クラブ、サブ世話クラブの情報交換を促し、世話クラブ及び

米山奨学・米山学友委員会



委員長
芦野 茂
(山形西RC)

サブ世話クラブ制度の充実を図ります。

なお、一人の米山奨学生に世話クラブの希望が集中した際には、前年度寄付額の多いクラブを優先的に世話クラブとさせていただきます。

2 サブ世話クラブ制度の推進

全ての米山奨学生に対してサブ世話クラブ制度を導入し、大学から遠方のクラブや世話クラブの経験の少ないクラブにも、米山奨学生を年間2回ほど訪問させて米山奨学生との交流の機会を作ることで、米山奨学制度の理解促進に努めます。

3 米山卓話の推進

各クラブからの要請があれば、年間を通じて、地区委員会委員はもちろん、米山奨学生も積極的に卓話に応じるように心がけ、米山奨学制度の理解促進に努めます。

4 米山奨学事業の理解促進

地区行事、ガバナー月信、ロータリーの友で米山奨学事業の活動状況をPRし、同時に米山功労者を称えることで、米山奨学事業の理解促進に努めます。

特に、ガバナー月信の企画「米山奨学・米山学友コーナー」には、全ての米山奨学生と地区委員が投稿します。

米山奨学生に、各クラブでの例会卓話やIMで積極的に活動してもらうとともに、地区大会では、米山奨学生の出席を義務化します。

5 寄付の促進

各グループのガバナー補佐の方々に、担当クラブの寄付状況を定期的に把握していただき、適宜、特別寄付のPRをお願いいたします。

各クラブには、地区委員会から過去の寄付状況を発信しますので、今後の目標設定をお願いします。

地区重点事項である地区一人当たり年間寄付額15,000円の達成を目指します。

(普通寄付：1人5,000円)

(特別寄付：1人1,000円以上から10,000円)

6 米山学友会運営への支援

米山学友会のHPやFacebookの活用を推進します。

奨学期間が終了する米山奨学生には、山形米山学友会に入会してもらい、FacebookやLINEによる情報交換を促進することで、米山奨学生が県外へ転出する場合にもその交流を図って参ります。

7 世界米山学友による「再会 in 関東」への参加

第3回米山学友による世界大会が「再会 in 関東」のテーマで、茨城県つくば市にて、2023年8月5日(土)～6日(日)に開催されます。第1回目は熊本で「感謝 in 熊本」、第2回目はモンゴルで「絆 in モンゴル」として開催され、今回の世界大会は2019年以来4年ぶりの開催となります。

米山学友の世界大会は、米山学友が世界中から集まる機会というだけでなく、米山学友とロータリアンとの親睦を深めることにより、世界平和、国際親善を皆で改めて願うとともに、被災地への支援活動や、地域の活性化に繋がることを目的としています。

第2800地区としても、山形米山学友会はじめ、米山奨学生、ロータリアンも多数参加して親睦を深め世界平和や国際親善に努めたいと考えております。



I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

当委員会は、地域社会奉仕のための委員会であり、いろんな側面から各クラブの地域社会奉仕活動を支援することを目的としています。

本年度は、ロータリー奉仕デーの事業として、地区内第1グループから第6グループまで、すべてのグループで最上川清掃プロジェクト「それぞれの最上川物語」を実施いたします。各クラブとも、この事業に積極的にご参加ください。

また、当委員会は、各クラブの地域社会奉仕活動を支援するツールとしての、財団の「地区補助金」の受付窓口となります。各クラブとも、積極的に地区補助金を活用して充実した地域社会奉仕活動を展開してください。

本年度、当委員会は、ゴードン・マッキナリーRI会長が示唆する「メンタルヘルスの取り組み」についてもチャレンジしていきたいと思っておりますので、各クラブのご支援、ご協力をお願いします。

II 地区地域社会奉仕委員会の活動計画

1 ロータリー奉仕デー「それぞれの最上川物語」

最上川をステージにして、地区内全てのグループが一丸となって、環境をテーマにした清掃活動事業を行います。

ロータリー奉仕デーの事業として地域社会に広報し、ロータリアンだけでなく、インターアクター、ローターアクターを始めとする青少年を含む多くの地域の方々、パートナーとともに汗をかいて、最上川をとおして環境問題、そしてふるさとについて考えてみましょう。

この事業の意義を広く広報し、ロータリーの公共イメージの向上につなげたいと思います。

2023年10月1日(日)に開催予定ですが、第1グループから第6グループまで、それぞれのグループのガバナー補佐、当委員会担当委員、各クラブ担当者の方々と綿密に連携を取りながら、事業を実施いたしますので、各クラブの積極的なご参加をお願いします。

2 地区補助金の活用

地区補助金を活用した地域社会奉仕活動につきましては、その手続も含めて、当委員会が各クラブの活動をバックアップいたします。

地区補助金を活用した各クラブの地域社会奉仕活動の成果を、地区公式ホームページ、地区公式LINE、月信などのツールを使って、広く地区内の各クラブに情報発信いたしますので、各クラブの次の地域社会奉仕活動のヒントにさせていただくなどして、地域社会奉仕活動の充実を図っていただきたいと思います。

なお、2024-2025年度に向けての地区補助金の申請書最終受付は、2024年3月31日となっておりますので、余裕を持って申請をお願いします。

3 メンタルヘルスの取り組み

本年度、当委員会は、ゴードン・マッキナリーRI会長が示唆する「メンタルヘルスの取り組み」についてもチャレンジしていきたいと思っております。

当委員会では、「メンタルヘルスの取り組み」に関する世界中の仲間のアイデア、実例を、地区公式ホームページ、地区公式LINE、月信などのツールを使って、広く地区内の各クラブに情報発信いたします。

そして、各クラブにおいて、「メンタルヘルスの取り組み」に関する奉仕活動を実施した場合には、是非、当委員会にご報告ください。当委員会が、広く地区内の各クラブに情報を発信し、情報を共有させていただきたいと思います。

らには、他国の人々を助けることを目的としたクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力をするを通じて、他国の人々とその文化や慣習、功績、願い、問題に対する認識を培うことによって、国際理解、親善、平和を推進するために会員が行う活動から成るもの」とされています。

簡潔に言えば、国際理解、親善、平和を推進するために実施する全ての活動ということになります。

当委員会は、国際奉仕のための委員会であり、いろんな側面から各クラブの国際奉仕活動を支援することを目的としています。

また、当委員会は、各クラブの国際奉仕活動を支援するツールとしての、財団の「グローバル補助金」の受付窓口となります。各クラブとも、グローバル補助金を活用した国際奉仕活動の可能性を積極的にご検討ください。

ゴードン・マッキナリーRI会長は、ロシアのウクライナ侵攻によって、世界の平和が脅かされている今こそ、世界に平和を築くことに力を注ぐべきであると述べています。この点の検討も必要です。

II 地区国際奉仕・ロータリー学友委員会の活動計画

1 国際奉仕活動の理解の促進

当委員会では、「各クラブが実際に取り組むことができる国際奉仕活動」に関する世界中の仲間のアイデア、実例を、地区公式ホームページ、地区公式LINE、月信などのツールを使って、広く地区内の各クラブに情報発信することで、各クラブにおいて、国際奉仕活動について、その目標を設定し、それに向けて具体的な行動を起こせるよう理解の促進を図ります。

2 グローバル補助金の活用

グローバル補助金への理解を促すとともに、グローバル補助金を活用して国際奉仕活動を行うクラブを積極的に支援します。

グローバル補助金は、人道的プロジェクト、職業研修チーム、および奨学金の3つの主要国際活動に資金を提供するものですが、特に、本年度は、ロータリー財団委員会、補助金・奉仕プロジェクト委員会と連携しながら、グローバル補助金奨学金制度の活用(グローバル補助金を活用しての奨学生の派遣)に向けての具体的な準備を進めたいと思います。

3 国際平和のための交流会

インターアクトやローターアクトは、世界中に数多くの仲間がいます。

そこで、インターアクト委員会やローターアクト委員会と連携しながら、ZOOM等のバーチャルな手法を用いて、海外のインターアクトクラブやローターアクトクラブとの意見交換イベント等(国際平和のための交流会)を試行します。異文化間のコミュニケーションと理解を深め、参加するインターアク

国際奉仕・ロータリー学友委員会



委員長
安孫子 俊彦
(山形東RC)

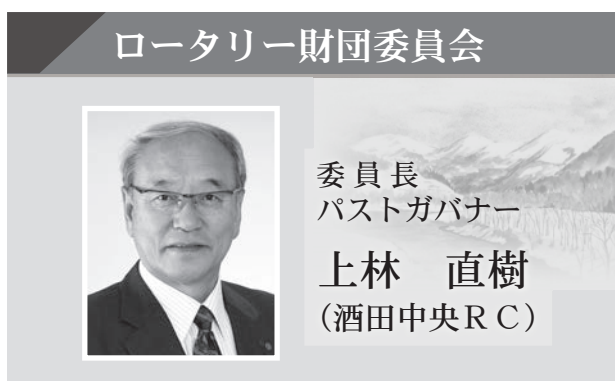
I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

国際奉仕は、標準ロータリークラブ定款第6条第5項によると、「書物などを読むことや通信を通じて、さ

ターやローターアクターのスキルアップを図るとともに、ロータリーファミリーであることを実感してもらい、国際平和構築につなげます。

4 ロータリー学友会の支援

当委員会は、ロータリー学友(インターアクト、ローターアクト、RYLA、青少年交換、ロータリー平和フェロシップ、グローバル補助金奨学金等のロータリープログラムの元参加者)及びロータリー学友会の窓口となる委員会です。ロータリー学友は、ロータリーの価値観を共有するロータリーファミリーの貴重な一員であり、ロータリー学友会は、ロータリー学友が奉仕と親睦を追求するために結成されたグループです。各クラブにおかれても、積極的な支援をお願いします。



I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

「いろいろな人に奉仕をしたい」、「世界中で良いことを広げ実現したい」、ロータリアンである私たちが抱いている想いではないでしょうか。そんな一人ひとりが手を繋ぎ、ロータリー財団に寄付することで、想いの一つひとつの実現が可能になると考えています。

「与える文化」を実践しましょう。

II 地区ロータリー財団委員会の活動計画

1 ロータリー財団への寄付1人150ドルの目標達成

ロータリー財団への寄付金については、年間1人当たり150ドルの寄付をお願いします。

うち50ドルは年次基金の普通寄付としてクラブ年会費の中から自動的に寄付をすることになっていますが、プラスアルファについては、当地区は全国的にみてかなり低い(ここ数年間の実績によりますと、一人当たりの年次基金の全国平均寄付額は約160ドルなのに対して第2800地区は約110ドル程度で推移しているようです)ため、地区内全ロータリアンに50ドルの普通寄付に加え、会員の意思で特別寄付としてプラスアルファのご協力がいただけるよう切にお願いいたします。

当地区では、下記2のポリオプラス基金(使途指定寄付)についても、年間1人当たり20ドルはクラブ年会費の中から自動的に寄付をすることになっています。そうしますと、ロータリー財団への寄付年間1人当たり合計150ドル目標とすると、年次基金としては年間1人当たり80ドルのプラスアルファのご協力が必要だということになります。

2 ポリオプラス基金へのご理解、ご協力のお願い

2022年はパキスタン、モザンビークにおいてポリオ罹患者が年間30人と激増しました。40余年にわたり継続されてきた国際ロータリー最大の活動であるポリオ撲滅活動を最終的成功に導くために、改めてポリオプラス基金(使途指定寄付)へのご理解、ご協力をお願いします。

3 地区補助金の有効活用

地域奉仕委員会とロータリー財団委員会が連携して、各クラブが、ロータリークラブでなければならない地域へのすばらしい奉仕活動を地区補助金制度を活用して実践されることをお手伝いいたします。

4 グローバル補助金の活用の啓蒙

グローバル補助金を活用しての国際奉仕活動の実践について啓蒙していきます。

活動の種類としては、①人道的プロジェクト、②職業研修、③奨学金制度の3つがありますが、本年度は、国際奉仕・ロータリー学友委員会と連携して、③のグローバル補助金奨学金制度の活用(グローバル補助金を活用しての奨学生の派遣)に向けての具体的な準備を進めたいと思います。



I ガバナー・地区委員長からのメッセージ

1917年、ロータリー・クラブ国際連合会で第7代目会長アーチ・クランプは「世界で良いことをしよう」と提唱しました。その提案に呼応して創立されたロータリー財団は、2017年に創立百周年を迎えました。

地区内のロータリークラブ、ロータリアンが、100年以上に渡り世界で活動してきたロータリー財団の成

果や存在意義を認識し、地域や世界での活動を推進する手助けとなる様、補助金・奉仕プロジェクト委員会は、以下の活動を行い、皆様をサポートします。

II 地区補助金・奉仕プロジェクト委員会の活動計画

1 各種基金の理解の促進

ロータリー財団の基礎となる年次基金の仕組みを理解頂き、積極的に寄付をする土壌作りを目指します。

また、将来の財団を支える恒久基金への理解を深めて頂く活動を行います。

さらに、災害救援やポリオプラス基金等他の基金への理解を深めて頂く活動を行います。

2 各種補助金の広報と情報提供

各種補助金に関する理解を深める活動を行います。特に、参加資格認定と資金管理、補助金の申請プロセス、報告要件に関する情報提供を行います。

- A) ポリオプラス補助金
- B) 地区補助金(地域奉仕委員会と連携)
- C) グローバル補助金(国際奉仕・ロータリー学友委員会と連携)
- D) 大規模プログラム補助金
- E) 災害救助補助金
- F) ロータリー平和フェローシップ

3 ロータリー財団の重点分野

ロータリー財団の重点分野に関する情報提供を行います。

<平和構築と紛争予防>

戦争が終わり平和が訪れれば、子どもたちは安心して暮らせます

<地域社会の経済発展>

更に安定した経済活動が保証され、家庭の安定につながります

<水と衛生>

安定した社会ではインフラの整備が進み衛生環境が改善されます

<疾病予防と治療>

衛生環境が改善し、医療施設の整備が進めば予防医学が進みます

<母子の健康>

衛生環境や医療環境の改善は母子の健康改善につながります

<基本的教育と識字率向上>

社会環境の改善は教育を推進し、更に社会環境が改善されます

<環境の保護・保存・保全>

高度に教育された人々と安定した社会は環境の保護を優先します

4 ロータリー財団の認証制度

ロータリー財団の認証制度に関する情報提供を行い、理解を深めていただきます。

資金推進・管理 (平和フェロー・ポリオプラス) 委員会



委員長
パストガバナー

池田 徳博
(鶴岡西RC)

当委員会の活動は、以下を目標として取り組みます。

- 1 地区目標となっております、ロータリー財団への寄付1人年間150ドルを目標として、皆さまのご理解とご協力を頂けますよう、卓話等の活動を推進してまいりますので、是非、ご要請ください。
- 2 当委員会は、平和フェロー及びポリオプラスに対する地区の寄付をこれまでと同様に継続することで、世界平和の構築及びポリオの根絶に対して、地区として積極的に貢献すべきと考えております。
- 3 地域奉仕委員会、国際奉仕・ロータリー学友委員会、補助金・奉仕プロジェクト委員会とも協力して、地区補助金及びグローバル補助金の活用の奨励に努めます。特に、本年度は、グローバル補助金奨学金の活用(グローバル補助金を活用しての奨学生の派遣)について、具体的な準備を進めたいと思います。



ガバナーは語る

平和フェローについて

平和フェローとは、ロータリー平和フェローシップ・プログラムのことです。

このプログラムは、平和と紛争解決の分野で国際的に活躍できる人材を育成することを目的とした、国際ロータリー(RI)が提供する奨学金プログラムです。

この目的を達成するため、ロータリーは、世界6カ国の名門大学と提携し、7つのロータリー平和センターが設置され、2002(平成14)年から奨学生の受け入れとプログラムの運営を行っています。

わが国では、国際基督教大学(ICU 東京都三鷹市)にロータリー平和センターが設置され、平和と紛争解決の分野の修士号取得を目指す人のための奨学金プログラムが実施されています。



ガバナーは語る

7月1日のガバナー会について

ロータリー年度は7月1日に始まり、6月30日に終わりますが、毎年、7月1日は東京で午前中に「ガバナー会」、午後からは「ガバナー・元・次期ガバナー懇談会」が開催されます。

ガバナー会は、全国34地区のガバナーが集合し、日本における国際ロータリーの役員として、国際ロータリーの動きやRI会長の方針を確認し合い、それぞれの地区内のロータリー活動の活性化を図るための意見交換を行う場であり、毎年、3回から4回開催されます。

7月1日の第1回ガバナー会は、私たち、新米ガバナーのキックオフ集会です。全員が、やる気に満ちあふれています。

午後からの「ガバナー・元・次期ガバナー懇談会」では、先輩のバスターガバナーからの激励をいただき、また、ガバナーエレクトの自己紹介なども行われます。



同期ガバナーとRI理事(ベージュのブレザーが同期ガバナー 私我真ん中にいます)



佐藤直前ガバナー(鶴岡RC)と嶋村直前ガバナー会会長(東京・東江戸川RC)



芳賀ガバナーエレクト(白鷹RC)のご挨拶



ガバナーは語る

知事と山形市長の表敬訪問に行きました

7月3日(月)の午後、新年度スタートを記念して、早速、吉村美栄子山形県知事及び佐藤孝弘山形市長の表敬訪問を行いました。

午後2時30分からは吉村知事を表敬訪問しました。知事の亡夫である吉村和彦氏は私も大変お世話になった先輩弁護士さんで、山形東RCの会員でもありましたので、知事もロータリーのことは良く存じ上げております。ロータリーの交換留学制度や米山奨学制度のことにも話が及びました。

午後4時30分からは佐藤山形市長を表敬訪問しました。佐藤市長のまちづくりの基本的な考え方を聞きし、ロータリーとも知恵を出し合い協力していきたいとのことでした。

第5グループの林ガバナー補佐、吉田ガバナー補佐、第5グループ内の会長さん、そして、小野地区幹事、伊藤明彦地区資金委員長にもご同行いただきました。

先日、私は、知事と山形市長については、新年度の最初の日に表敬訪問をしたいと思立ち、時間が迫っている中、ご無理を申し上げて時間を割いていただきました。ご理解くださった吉村知事、佐藤山形市長に感謝いたします。



吉村山形県知事訪問



佐藤山形市長訪問



ガバナーは語る

山新グループの表敬訪問に行きました

7月11日(火)の午後、山形メディアタワーにて山新グループの表敬訪問をさせていただきました。

林、吉田ガバナー補佐、小野、伊藤明彦地区スタッフの他、第5グループ内の4名のクラブ会長にご同行いただきました。

寒河江浩二山形新聞会長、佐藤秀之社長、板垣正義山形放送社長にご対応いただき、私からは当地区のロータリー奉仕テーマ事業「それぞれの最上川物語」についてご説明を申し上げます。山新グループも、最上川に関しては、長年「最上川桜回廊」事業や「最上川200キロを歩く」事業を実施しており、山形の母なる川「最上川」に対する同じ想いを共有することができました。



最上川の美しさ未来に

国際ロータリー 伊藤ガバナー来社
第2800地区 山形放送社長と懇談した



国際ロータリー第2800地区の伊藤三之ガバナーと伊藤ガバナーとの懇談の様子。伊藤ガバナーは「最上川物語」について、環境をテーマとする事業に「丸」となっており、その美しさを語り、環境問題や古里について考えるきっかけにしたい」と述べ、ロータリー奉仕テーマとして、10月1日に「高層清掃」を企画する旨を説明した。11月11、12日に山形市のやまぎん県民ホールで地区大会を開催することも報告した。

第2800地区は県内49クラブで構成し、会員数は5月末現在で1517人。(吉村 瑛人)

山形新聞 2023年7月12日 転載許可済み



シンガポール国際大会

2024年 5月 25日~29日

内容

- ◆ 2024年5月26日 日本人朝食会 開会セッション
- ◆ 2024年5月29日 閉会セッション

会場

- ◆ マリーナベイ・サンズエキスポ&コンベンションセンター
Marina Bay Sands Expo and Convention Centre
 - 分科会、チケット制行事
- ◆ ナショナルスタジアム National Stadium
 - 開会&閉会セッション、本会議

登録

My Rotaryの国際大会の「登録」からオンラインで行ってください。

- \$450 2023年5月27日~31日
- \$500 2023年6月1日~12月15日
- \$595 2023年12月16日~2024年3月31日
- \$695 2024年4月1日~5月29日

※30歳以下の場合には登録料が異なりますので詳しくはMy Rotaryをご覧ください。

※My Rotaryで国際大会登録後、ホスト主催の各種イベント、RI会長主催昼食会、RI会長エレクト主催リーダーシップ昼食会などのチケット制の行事や、宿泊ホテルの予約が可能になります。

※日本人朝食会の日時・会場・登録料については別途ご案内いたします。

ロータリー最大の行事
国際大会に参加しよう！



お問合せ

第2800地区 ロータリー事務局まで
E-mail: office@rid2800.org

新会員紹介

米沢 R C



安部 幸裕
(あべ ゆきひろ)

職 業/ 精英堂印刷株
役 職/ 代表取締役社長
職業分類/ 平版印刷
生年月日/ 1968年4月3日
入 会 日/ 2023年7月1日

米沢 R C



安部 徹
(あべ とおる)

職 業/ 米沢商工会議所
役 職/ 専務理事
職業分類/ 商工会議所
生年月日/ 1960年6月9日
入 会 日/ 2023年7月1日

米沢おしょうしな R C



片山 朋彰
(かたやま ともあき)

職 業/ 榊丹工社塗装所
役 職/ 常務
職業分類/ 塗装業
生年月日/ 1966年10月23日
入 会 日/ 2023年7月3日

米沢上杉 R C



佐藤 和英
(さとう かずひで)

職 業/ 榊エアテック米沢営業所
役 職/ 所長
職業分類/ 総合設備業
生年月日/ 1966年11月22日
入 会 日/ 2023年7月4日

高畠 R C



西方 茂太
(にしかた しげた)

職 業/ 南西方燃料店
役 職/ 代表取締役
職業分類/ 燃料小売業
生年月日/ 1981年3月5日
入 会 日/ 2023年7月1日

高畠 R C



井田 和史
(いだ かずし)

職 業/ 南旅館エビスヤ
役 職/ 代表取締役
職業分類/ 旅館業
生年月日/ 1981年12月26日
入 会 日/ 2023年7月1日

高畠 R C



後藤 隆暢
(ごとう たかのぶ)

職 業/ 錦爛酒造株
役 職/ 代表取締役
職業分類/ 酒造業
生年月日/ 1976年10月15日
入 会 日/ 2023年7月1日

白鷹 R C



関 千鶴子
(せき ちずこ)

職 業/ 自営
役 職/ 華道師範
職業分類/ 華道
生年月日/ 1957年12月31日
入 会 日/ 2023年7月6日

山形北 R C



近藤 啓太郎
(こんどう けいたろう)

職 業/ 榊建築
役 職/ 代表取締役
職業分類/ 建設業
生年月日/ 1974年10月17日
入 会 日/ 2023年7月13日

山形北 R C



鈴木 淳悦
(すずき じゅんえつ)

職 業/ 榊日本プレス広告社
役 職/ 代表取締役社長
職業分類/ 広告代理業
生年月日/ 1970年5月11日
入 会 日/ 2023年7月20日

山形北 R C



大場 亮
(おおば りょう)

職 業/ 榊建築テクノ
役 職/ 代表取締役社長
職業分類/ 建築塗装業
生年月日/ 1974年2月9日
入 会 日/ 2023年7月27日

新会員情報は
地区事務局に
お寄せください



ガバナーは語る

新会員をあたたく迎えましょう！

新会員の皆さま、ロータリーによろこそ！

ロータリーの核心は「奉仕の理念」です。難しいことはありません。「世のため人のために、自分に何ができるか」ということです。「他人を思いやる心」と言ってもいいでしょう。

そして、奉仕という気高い志に基づく行為は、奉仕を受ける人たちに良い効果を与えますが、それ以上に奉仕をする側の者にも、幸福感、喜びなど、人生で最高の価値を与えてくれるはずです。

つまり、利他の精神が自分の幸せにつながる、そして自分を活かす道であるということです。

新会員の皆さま、一緒にロータリーを、そして人生を楽しみましょう！

新会員を迎え入れる先輩ロータリアンの皆さま、新会員に一日も早く、ロータリーの中での居場所を見つけてあげましょう！



ガバナーは語る

ポリオプラスと世界ポリオデーについて

世界からポリオ(急性灰白髄炎、以前は「小児マヒ」と呼ばれた)を撲滅することを目標に、1980(昭和55)年から始まったロータリーのポリオ経口ワクチンを利用した予防接種活動。

1985(昭和60)年からは、ポリオプラスとして、ポリオの他、子どもの間に流行する5種類の伝染病(百日咳、ジフテリア、破傷風、ハシカ、結核の5疾患)の予防接種の援助も行われました。

その後、ポリオプラスの「プラス」は、ポリオが常在する2カ国(アフガニスタン、パキスタン)でのポリオ感染抑止にとどまらず、ポリオがこの世からなくなった後にも、ほかの感染症との闘いを支えていくことも意味するようになりました。

つまり、ポリオプラスの「プラス」は、現在では、ポリオ根絶の取り組みによって築かれた運営スキル、資金調達のノウハウ、ボランティアを始めとする人材の活用方法のノウハウなどを、他の疾病対策に活かしていくことも意味しているのです。

そして、毎年10月24日は「世界ポリオデー」です。この日は、始めてポリオワクチンを開発したチームを率いた米国の医学者ジョナス・ソークさんの誕生日です。

この日は、世界中のロータリアンが、ポリオ根絶に向けたイベントを開催します。皆さまのクラブでも、10月24日、ないしはその前後あたりで、是非、ロータリーのポリオプラス活動の理解を深めるイベントを企画してみたいかがでしょう。

当地区としては、11月11日と12日に開催されます地区大会の中で、「ポリオデー」を踏まえたイベントを企画、実施しますので、ご協力をお願いいたします。

訃報のお知らせ

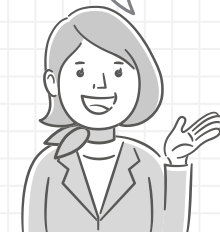
最上RC



菅 徳嘉
(かん のりよし)

2023年7月15日 逝去
享年62歳
職業分類：小売業

各種情報は
地区公式LINEへ
お寄せください



MyRotary



地区
ホームページ



地区公式
Facebook



地区公式
LINE



コーディネーター
NEWS



ハイライトよねやま
vol. 280

ごめんなさい！ 7月号の訂正箇所です！

- 17頁 「ガバナー公式訪問に関する基本方針」の2「事前準備」(2)

(2)ガバナー補佐を招いてのクラブ協議会の開催

ガバナー公式訪問の2週間前までに、ガバナー補佐を招いてクラブ協議会を開催し、クラブの目標、活動状況と成果、懸念などを事前に十分に話し合ってください。また、地区に対してのご要望、ご質問についてもご協議願います。

クラブ協議会前に、ガバナー補佐を通じてガバナーからの質問項目をお知らせすることもありますので、その際にはその点についてもご協議願います。

- 14頁および15頁の予算書の下部表の表記は、いずれも「支出の部」です。

- 15頁 「ガバナーエレクト地区資金予算書」の「23～24年度予算」

総計 ¥5,944,000

- 裏表紙 「7月の地区スケジュール」

12日(水) 鶴岡市長表敬訪問
13日(木) G公式訪問(白鷹)





8月の地区スケジュール

Schedule of August 2023



世界に希望を生み出そう

■ 会員増強・新クラブ結成推進月間 ■

1	火	G公式訪問（米沢・米沢上杉・米沢中央・米沢おしょうしな） 米沢市長・山形新聞置賜総支局長表敬訪問・G 歓迎会
2	水	G公式訪問（山形）
3	木	
4	金	
5	土	世界米山学友 再会 in 関東
6	日	
7	月	
8	火	G公式訪問（余目） 庄内町長表敬訪問・G 歓迎会
9	水	
10	木	
11	金	（山の日）
12	土	
13	日	
14	月	
15	火	
16	水	
17	木	
18	金	
19	土	
20	日	諮問委員会①
21	月	
22	火	G公式訪問（山形南）
23	水	G公式訪問（鶴岡・鶴岡西・鶴岡東・鶴岡南）・G 歓迎会
24	木	
25	金	
26	土	
27	日	
28	月	第5グループG 歓迎会
29	火	
30	水	
31	木	